



写真 大型船舶が通過するパナマ運河の閘門（写真提供：パナマ大使館）

## かわはく No.43

### CONTENTS

平成23年度春期企画展案内「世界の運河・日本の運河」	2
かわサタ自然教室「冬の星空観察会」開催報告	3
コラム：ファミリー広場に野生動物がやってくる???	3
今年のかわはく体験授業・出張授業のご報告	4
電子顕微鏡の世界(10)～電顕研修開催報告～	5
交流員の現場から	6
かわはくのお仕事紹介「溪流観察窓」より	7
コラム：虫を観察③春の虫	7



## 平成23年度春期企画展案内

# 「世界の運河・日本の運河」

運河は、田畑に灌漑するため、また物資を輸送するために古くからつくられてきました。現在はその重要性や必要性について不明瞭なものが多くなっていますが、私たちは先人の開削した運河（水路）の恩恵を受けて生活しており、運河は人の知恵と努力の見出せる歴史的遺産でもあります。

私たちの住む関東平野は、特に徳川家康が江戸に入った後、その水みちの状況が大きく変化します。物資を運ぶため、そして江戸の町を大きくするために運河が開削され、河川は治水の目的と共に運河化されてゆきます。その様子を地図と共に解説し、運河が江戸の発展に不可欠であったことを感じていただければと思います。

さらに、江戸時代中期に新田開発が必須となった幕府の命により、井澤弥惣兵衛為永という人が指揮して見沼代用水をつくり、さらにこれを利用して舟運を行うため、現在は国指定史跡になっている見沼通船堀を開削します。通船堀はただ川をつなぐのではなく、川の高さを調整する「閘門」というしくみをもっています。これがどのようなものなのか、模型を使って解説します。

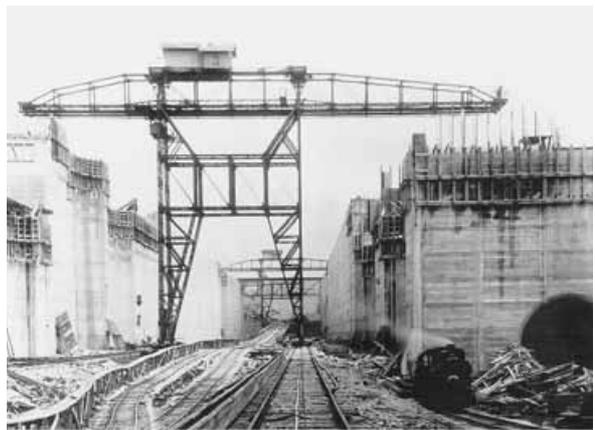


見沼通船堀閘門開閉実演の様子

さらに時代を下ると、荒川下流（隅田川）周辺地域を洪水から守るため、荒川放水路が開削されますが、この工事を指揮した青山士が単身赴いてその工事に関わったパナマ運河についても、地形模型を用いて解説します。南米大陸の南端を通らずに大西洋と太平洋を結ぶ運河は今も多くの大型船舶が通ります。この運河の開削にはどのような苦労があったのでしょうか。

日本において運河は、江戸時代前後から町の発展に重要な役割を果たしました。世界においては、その歴史は紀元前に及びます。中国で紀元前につくられ始めた京杭大運河は現在でも一部を除いて利用されており、世界最長です。企画展では特にヨーロッパの運河に着目し、その歴史や技術の発展、そして現在の様子などを紹介します。また世界的に重要なスエズ運河で日本の企業が行った拡幅工事について紹介します。

日本でも運河は数多く開削されています。その中から、「インクライン」という方法で高低差を克服し京都の街の発展に貢献した琵琶湖疏水など、いくつかを紹介します。（研究交流部 森 圭子）



建設中のパナマ運河 写真提供：荒川下流河川事務所

＝ 関連イベントもあります！いずれも無料です。お気軽にご参加下さい ＝

### ★講演会「荒川に関わった技師たち

～近代・青山士と江戸期・井澤弥惣兵衛～

日時：4月21日(土) 13:30～15:00

講師：高崎哲郎氏（作家・土木史研究家）

荒川流域住民の生活に大きく貢献した二人の技師を通して荒川の治水・利水についてお話しします。

### ★見沼通船堀通船実験「閘門のしくみを学ぼう」

日時：3月24日(土)～4月8日(日)の春休み期間  
及び4月28日(土)～5月6日(日)終日

場所：川の博物館1階ワークショップ内

見沼通船堀をどのように通っていたかを、実験装置を使って学びます。



## かわサタ自然教室 「冬の星空観察会」開催報告

1月28日(土)のかわサタ自然教室は、17時スタートといういつもの違う時間帯に行い、この日だけは特別に17時半以降は館内の街灯などを消灯し、可能な限り暗い環境をつくりました。

「冬の星空観察会」を開催するにあたり、肉眼で星座をたどるだけでなく、望遠鏡で星を見る感動を多くの人に経験してもらいたいと強く思い、私の恩師である、埼玉県立春日部女子高等学校の内藤峰夫先生から天体望遠鏡をお借りすることにしました。各地で観望会を行っている内藤先生は、当日、望遠鏡の貸し出しだけでなく、ボランティアの講師として遠路はるばるお越し下さいました。

外に出る前に、講座室で星座早見盤を作り、全員で使い方の確認をしました。また、内藤先生がパワーポイントを使って、光害の話、腕をのぼして体で角度を測り星を見つける方法などをお話しして下さいました。光害とは、街明かりによって夜空が明るくなり、星空が見えにくくなってしまいう光の公害のことです。

説明の後には、いよいよ外で観察です。まず肉眼で星の位置と名前をみんなで確認しました。それだけでも歓声が上がりましたが、待ちに待った望遠鏡の登場です。口径10cmの屈折望遠鏡と口径21cmの反射望遠鏡の二台体制で、金星・木星・



ステキな星空見えるかな？

月・オリオン大星雲 (M42)・プレアデス星団 (すばる, M45)・h- $\chi$  (エイチカイ) 星団・アンドロメダ銀河 (M31) を観察しました。内藤先生が新しい目標に望遠鏡を合わせると、すぐに長蛇の列ができます。私は、望遠鏡を覗いている子どもの横につき「見えている星はどんな様子かな？」と聞きながら、きちんと見えているかどうかの確認をしました。望遠鏡を通して見る美しい星の姿に、参加者のみなさんは終始興奮状態で、星空を楽しんで頂けたようです。

かわはくでは初めての試みだった星空観察会でしたが、晴天にも恵まれ大成功のうちに終了することができました。(研究交流部 杉内由佳)

## コラム ファミリー広場に野生動物がやってくる???

かわはくの敷地には芝生が広がり、お正月遊びイベントにはたこ揚げができるほどの面積がありながら、大きなエノキの木が立っているファミリー広場があります。冬のある日、丸くコロコロした動物のふん？を発見しました。大きさは10ミリ程度、草が混じっているようです。早速これを調べたところ、ノウサギのふんでした。

ファミリー広場は来館者や職員の目につきやすい開けた場所ですが、ここに昼間ノウサギが出てきたという話は聞いたことがありません。どうやら誰もいない夜中にノウサギがファミリー広場やってくるようです。また、以前雪が積もった朝、タヌキの足跡も発見しています。

ファミリー広場は昼間われわれヒトが利用するスペースですが、夜中から早朝にかけては野生動

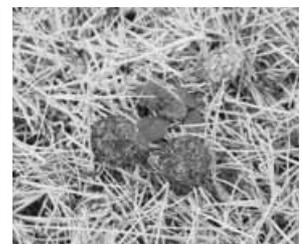
物が利用していることがわかりました。いわばかわはくの隠れた来館者ということです。

ふんや足跡だけでなく、木の実を食べた跡なども発見するがあり、普段目にする機会が減多にない野生動物たちも、それらを手掛かりに現れたことがわかります。お家や学校の周りで知らないうちにやってくる野生動物たちを探してみませんか。

(研究交流部 藤田宏之)



夜、かわはくにやってきたノウサギ



ノウサギのふん



## 皆さんも、かわはくオリジナルメニューで学習してみませんか？ 「今年のかわはく体験授業・出張授業のご報告」

かわはくでは、主に小学生をメインとした体験授業や出張授業(出前授業)の受入を行っています。今年度も数多くの小学生の皆さんに来館していただき、研究交流部のスタッフやかわはくボランティアの皆さんと一緒に勉強しました。

今年度体験授業・出張授業でかわはくを利用いただいた学校は、平成24年1月末段階で59校です。今年度の特徴として、小学校の利用数が増加しただけではなく、中学校や高校、大学の利用や地方自治体が管轄する教育施設の利用も増加した点があげられます。

かわはくの体験授業を御存知ない方もいらっしゃるかと思いますので、まずはかわはくで実施している体験授業の内容とその特徴について改めて皆さんに紹介してみたいと思います。

かわはくの体験授業の核を構成しているプログラムは、大きく分けると以下の3つに分かれています。

- ①荒川大模型173を使用したガリバーウォーク  
→荒川の特徴や、歴史を学びます。
- ②簡易水質検査キットを使用した水質検査  
→河川のCOD(化学的酸素要求量)の値を計測します。
- ③河原へ出かけての野外教室  
→川に入って水生生物を調べたり、河原で石や植物を調べたり、水鳥の観察などを行います。

核となる、これら3つのプログラムの内容だけでも授業内容に興味を持っていただける方がいらっしゃるかもしれませんが、かわはくの体験授業の特徴はここからが本題です。

これらプログラムをそれぞれ単独で実施することもあります。それだけではなかなか各学校のニーズに応えることができません。各学校の立地場所や学習したいテーマと、かわはくが提供している体験授業のテーマが100%一致することはまずありえないからです。

そこで必ず体験授業や出張授業を行う際には、事前に学校の先生と十分な打ち合わせを行い、学校側の学習テーマに添えるように、自由に体験授業のプログラムを変更して実施しています。一から授業内容を考えて学校に提案し、実施することも少なくありません。このように準備をすること

によって、当館が体験授業や出張授業を引き受ける意味合いもますます強くなりますし、まず何よりも実際に授業を受ける生徒の皆さんが通常の学校の授業とは一味も二味も違う授業を心から楽しんで学んでもらえるようになるのではないかと考えています。

最後に今年度研究交流部スタッフが頑張ったことを書いて、終わりにしたいと思います。

実はかわはく(体験授業に対応するスタッフ)が提供しているプログラムは毎年毎年少しずつ変わっています。前年に実施した反省を生かしてプログラムを変更することもありますし、スタッフで相談して新たにプログラムを開発することもあります。そのため、意外と知られてはいないかもしれませんが、かわはくではこんなことも、あんなことも実はできるかもしれません。ちなみに今年度は化石のレプリカを作ったり、火山が爆発する仕組みの実験をしたり、雲を発生させる実験なども行いました。

もし、この記事を読んで興味を持ってくださった方がいらっしゃいましたら、ぜひかわはくまでご連絡ください。打ち合わせをした上で、楽しい授業プログラムを提案させていただければと思います。  
(研究交流部 羽田武朗)



●荒川大模型173を使用したガリバーウォークの様子



●【出張授業】都幾川探検の様子



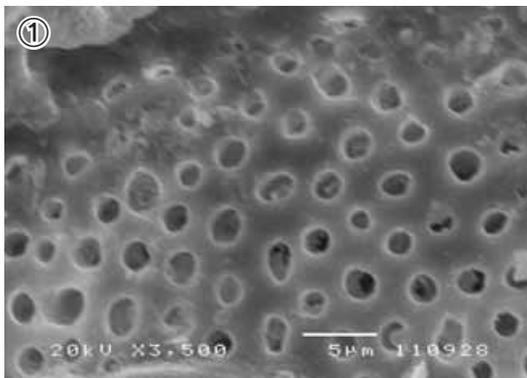
# 電子顕微鏡の世界 (10) ～電子顕微鏡操作研修会～

埼玉県立川の博物館では、走査型電子顕微鏡（略称SEM）を所有しています。当館ではSEMを積極的に活用していただくことを目的に、県内の先生方を対象にした電子顕微鏡操作研修会を毎年開催しております。今年も9名の募集があり、ご参加くださいました。普段ですと申し込みが多く抽選となるのですが、今年度は様々なことが重なった結果、少人数でゆっくりと電子顕微鏡について学ぶことができました。参加して下さった先生方はいずれも熱心で、今年も多くの電子顕微鏡を利用した写真が撮影されました。皆さん目的

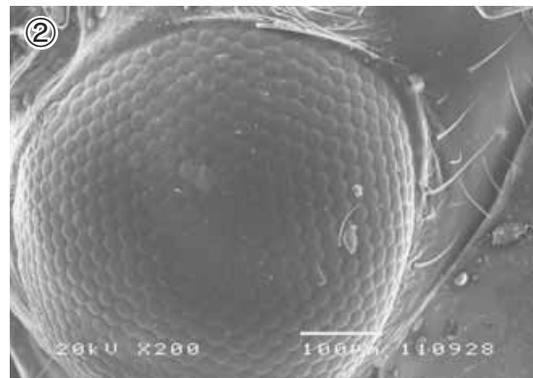
を持って研修に参加していますので先生の間でも活発な発言があり、とても有意義な学びの場になったと思います。

平成24年度も研修会の実施を予定しております。SEMを利用することで、普段なかなか見ることのできないミクロの世界を垣間見ることができます。電子顕微鏡で撮影した写真は、教材として活用することもできます。また川の博物館のホームページにも、当館で撮影された電子顕微鏡写真を資料として掲載しています。

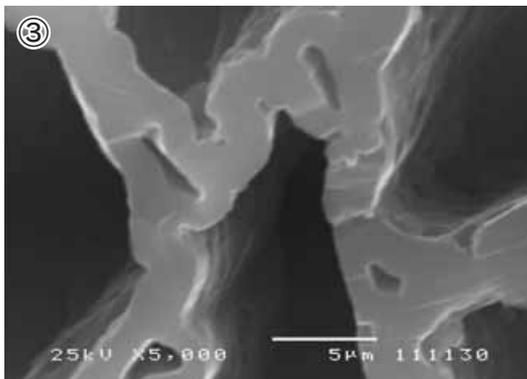
(研究交流部・石井克彦)



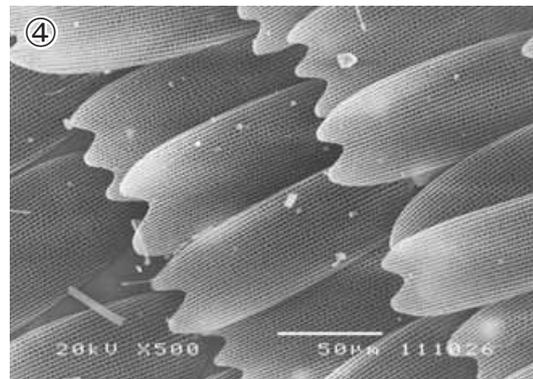
①桶川市立桶川中学校 池田裕子教諭「有孔虫」



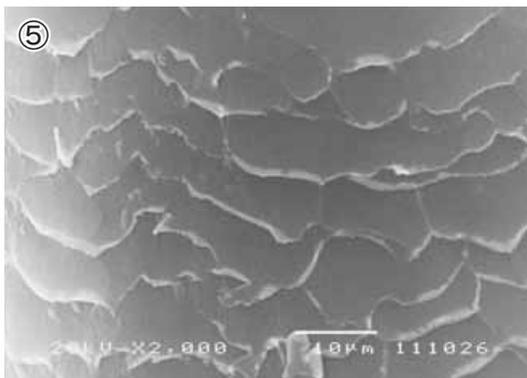
②埼玉県立浦和高等学校 長瀬義行教諭「クロウリハムシ」



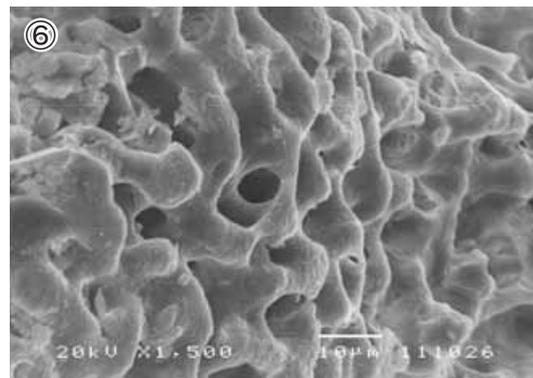
③総合教育センター江南支所 田口剛教諭「竹の炭」



④埼玉県立東松山高等学校 藤田暎子教諭「チョウの翅」



⑤埼玉県立川越南高等学校 野村智子教諭「髪の毛」



⑥埼玉県立三郷北高等学校 加藤悟教諭「ウニ」



## 交流員の現場から

普段お客様を案内したり、解説を行ったりする交流員の仕事を、交流員の出会ったことや感じたことから紹介します。かわはく交流員は皆様のご来館をお待ちしています！

かわはくといえば夏！というのが一般的かと思いますが、季節の移ろいと共に様々な顔が現れます。たとえば昨春の事、草むらからガバッと黒い影が飛び出してきました。それも危うく踏んづけてしまうほどすぐ足もとに。恐る恐る目をやれば自ら「見て！」と言わんばかりのウシガエルでした。体の大きな彼らは色んな生き物をねらいに向かっていくんだとか。暖かな季節には気まぐれなカエルや虹色のトカゲ。寒空には白鳥。一年中はじめましてづくしですが、お客様には何度でもお会い出来ることを楽しみにしております。ぜひあらゆる季節と出逢いにきてください！（足澤成美）

かわはくではお正月遊びのイベントで、凧あげをします。毎年午前中は風がなく、凧もなかなかあがりませんが、子供たちは楽しそうで、それも男の子より女の子の方が笑ったり、走ったり、楽しそうだった気がします。でも一番一生懸命なのは見ているお母さんやお父さんです。恐らく最近では凧あげのできる場所も少ないのでチカラが入って、「向こうから走ってきて！」などと言う間に凧落ちてしまい…。それでも楽しかった、と言ってくれるので、お正月遊びのイベントを行うのは良いなと思います。来年は凧が取れないところに飛ばされませんように。（倉上岳）

日頃、お客様との会話で印象に残るのはご年輩のお客様のお話で、先日も「子供のころに水桶を担いだ事があるよ」など当時の大変なことや楽しかったことを教えて頂きました。そんなお話は子供たちに伝えるようにしています。（高橋真由美）

ワークショップで二人の子供にやり方を教えていると、お母さんが「学生アルバイトなの？教え方が上手ですね」とおっしゃってくれました。少し話をした最後に「ちょっと寄ってみただけ、来て本当によかったです。また来ます」との声。これからもがんばります！（篠田裕紀）

9月に行われた「月よりだんご」イベントは十五夜のお供え物を子供は盗んでもよい、というお月見泥棒の風習を体験してもらうものでした。私はファミリー広場の大きな木の下で団子のみはりのうさぎ（鬼）役です。鬼の私が「だるまさんが転んだ～」と目隠ししている間に長い竹串でだんごを串刺しにして逃げる…、スリルあるルール。子供たちはもちろん、大人の方も参加して、「だるまさんが～」の声に合わせて変なポーズや面白い顔をする人、慌てて団子をおとす人もいて、参加者と一緒に笑ってばかりでした。これからも昔から伝わる風習や遊びを楽しく伝えていくお手伝いができれば嬉しいです。（田口めぐみ）

「ばちばちばち」と拍手がおこるとやりがいを感じます。展示物や屋外施設の解説の時です。中には声をかけて下さるお客さまもいらっしゃって、そんな声が嬉しく、解説にも心をこめます。毎日のように来てくれる小学生たちも私に元気をくれます。かわはくが子供たちの憩いの場になるよう、自然を大切に出来る子供たちが育つよう、頑張っってアプローチしていきたいと思います。（内藤真吾）

かわはくには小さな常連さん達があります。学校が休みの日には朝一番でやってくる子供、ケンカをしても次はまた仲良く一緒にくる子供もいます。しょんぼりしている子供も一緒に折り紙を折ったりわくわくランドで遊んだりすると帰る頃には笑って手を振ってくれます。小四から通っている子供は「来年高校受験だ」と教えてくれました。そんな子供たちが大人になった時、笑って思い出せる「かわはく」でありたいな、そのためにできることはなにか、と日々思いながら交流員として働いています。（半田絵里）

冬のみの企画として、今年はレストハウスにキッズコーナーをつくり、他のスタッフと色々な案を出しあって、積み木、カラーボール、どんぐり遊びなどを設置しました。その甲斐あって多くの子供たちが遊び、中には長居する家族もおられます。まだの方は是非どうぞ！（成田信吾）

12月に入ると、かわはくイルミネーションの準備を始めます。カワシロウを形どったライトやわくわくランドの船を飾ったもの…。展望台から見ると綺麗で見飽きません。でも一番は正面入口からの大水車の眺めです。噴水広場の水面にも大水車が映り、印象的です。私もまた来年が楽しみです。皆様もいかがでしょうか。（山本加奈）



# かわはくのお仕事紹介

## 「溪流観察窓」より

荒川にはどのような生物が生活しているかご存知でしょうか？溪流観察窓では荒川流域に棲む魚を始め、カニやエビ爬虫類などを展示しています。現在、33種370匹を飼育し、その他には季節によってカエルの卵やヤゴなどの水生昆虫を展示しています。私達の仕事にはこれらの生き物の世話はもちろん、お客様に見て頂くための水槽の水換えや壁面についた苔をとる事、又荒川に行き展示用の魚類を採る事も含まれます。

溪流観察窓で是非見て頂きたいのがイワナとヤマメが泳ぐ、約15トンもの水量がある大水槽です。岩壁は荒川上流の渓谷のジオラマで、普段見る事ができないイワナとヤマメを同じ目線から間近に見る事ができます。

又、季節も春になり今年も魚たちの恋のシーズンが始まりました。魚の種類によって特にオスの体表には‘婚姻色’というメスにアピールするための体色が現れます。ウグイは体に赤と黒の線がはっきりし、オイカワは吻回りに‘追い星’というブツブツが現れ、体は緑色と桃色の色合いがとても綺麗です。尻びれも伸長し、立派に見えます。そしてヤリタナゴとタイリクバラタナゴもヒ

レや体が朱色に色づき、産卵するためにドブガイの回りで‘貝覗き’という行動をとります。水槽の中でも春の訪れを感じる事ができますよ。

3年前からはブラックバスやブルーギルといった外来魚の展示を始めました。人の手による放流により、荒川の生態系も変わりつつあります。そういった環境問題も展示を通して関心を持って頂ければ嬉しいです。

週末にはイワナとヤマメの餌やり体験も行っておりますので是非ご参加下さいね。

(溪流観察窓 保野晶子)



横幅約7.4mある大水槽 ヤマメとイワナが泳いでいます

## コラム 春の虫

空っ風の吹く関東平野にも春がやってきました。スプリングエフェメラル (Spring ephemeral) と呼ばれる生き物たちがこぞって出てきます。意味は「春のはかないもの」や「春の妖精」などです。学問的な意味の言葉ではありませんが、どことなく春らしさを強調する感じがして好きで使ってしまう。いわゆるセンスオブワンダー (Sense of Wonder) ですね。代表的なものとして、植物のカタクリやニリンソウ、アズマイチゲ、スマレの仲間などがあります。林床で春になると真っ先に咲きだして、虫によって種をつける。そんな植物です。夏になり草葉が生い茂ると見えなくなってしまうような背丈の低いものが多いのも特徴です。春にだけ出てくる虫もいます。ミヤマセセリやコツバメ、ピロウドツリアブなど春の花

をめぐって花粉をはこぶ大切な役割を持っている虫たちです。

散歩で見つけた生き物が、夏や秋までいるかどうか観察してみてください。もし、春にだけ見かけたようでしたら、それが日本の四季を知らせてくれる「春の妖精」です。

(研究交流部 石井克彦)



ウスバシロチョウ



キバナノアマナ

### 4月

3/10/土~5/6/日

企画展「世界の運河・日本の運河」

2/7/火~6/3/日

スロープ展「きんぎょ~身近な觀賞魚~」

- 1/日** **かわはくであそぼう・まなぼう「桜の押し花づくり」**  
時間：13：30~15：00  
費用：無料  
※材料がなくなり次第終了  
内容：桜の押し花をつくります。
- 15/日** **荒川ゼミナール「大人の遠足・元・荒川だった場所を見に行こう!久下編」**  
時間：10：00~16：00(予定)  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎  
内容：熊谷市久下周辺を歩き、元荒川の始まりを見に行きます。
- 21/土** **企画展関連講演会・荒川ゼミナール「荒川に関わった技師たち~近代・青山土と江戸期・井沢弥惣兵衛~」**  
講師：高崎哲郎氏  
時間：13：30~15：00 費用：無料  
定員：80人(申込順) ☎  
内容：荒川流域住民の生活に貢献した二人の技師を通して、荒川の治水・利水についてお話します。
- 21/土** **かわはく体験教室・かわサタ自然教室「コウモリ観察会」**  
時間：16：30~18：30  
費用：100円(保険料)  
定員：25名(申込順) ☎  
内容：バットディテクターを使って普段聞くことのできないコウモリの超音波を聞きながらコウモリを観察します。

### 6月

6/5/火~9/23/日

スロープ展「今だって氷河時代・サテライト展示」

3/日

荒川ゼミナール  
「大人の遠足・元・荒川だった場所を見に行こう!隅田川編」  
時間：10：00~16：00(予定)  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎  
内容：隅田川沿いを歩きます。

- 9/土** **かわはく体験教室・川に親しむ教室「箱めがねで川底たんけん」**  
時間：10：00~12：00  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎  
内容：箱めがねを使って、川の中の様子を観察します。
- 10/日** **かわはくであそぼう・まなぼう「環境の日記念・水質調べ」**  
時間：①10：30~12：00 ②13：30~15：00  
費用：無料  
※材料がなくなり次第終了  
内容：環境の日にちなみ、水質検査キットで水質調査を体験します。
- 17/日** **企画展関連イベント・あなたの足下大発見!②土の世界**  
時間：13：30~15：00  
費用：無料  
定員：80名 ☎  
内容：土壌の研究者である当館館長による講演会です。
- 23/土** **かわはく体験教室・かわサタ自然教室「魚の体を魚拓で観察」**  
時間：13：30~15：30  
費用：200円(材料費)  
定員：25名(申込順) ☎  
内容：魚の魚拓を取りながら魚の体のつくりを勉強します。
- 30/土** **荒川ゼミナール【講演会】「荒川の流路変遷と治水」**  
講師：松浦茂樹氏(東洋大学国際地域学部教授)  
時間：13：30~15：00  
費用：無料  
定員：80人(申込順) ☎  
内容：江戸期を中心とした荒川の瀬替えについてお話します。

### 5月

5/26/土~6/24/日

5月企画展「土壌モノリス展~日本の土・世界の土」

3/木・祝~6/日

かわはくGWまつり  
時間：10：00~16：00

- 6/日** **かわはくであそぼう・まなぼう「地質の日記念・液状化ってなんだろう?」**  
時間：13：30~15：30  
費用：無料  
内容：液状化がどうしておこるのか、簡単な実験を体験します。
- 13/日** **荒川ゼミナール「札所めぐってジオウォーク!」**  
講師：小幡喜一氏  
時間：10：00~16：00(予定)  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎  
集合・解散：秩父鉄道秩父駅  
内容：秩父札所を歩きながら、地形・地質・湧泉などの解説をします。
- 19/土** **かわはく体験教室・川に親しむ教室「川の生き物観察教室」**  
時間：10：00~12：00  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎  
内容：かわせみ河原で、川の中にすむ生き物の様子を観察します。
- 20/日** **ボランティア説明会**  
時間：10：30~12：00  
内容：ボランティアの新規募集の説明会を行います。
- 26/土** **かわはく体験教室・かわサタ自然教室「まが玉づくり」**  
時間：13：30~15：30  
費用：300円(材料費)  
定員：25名(申込順) ☎
- 27/日** **企画展関連イベント・あなたの足下大発見!①親子で土の観察**  
時間：13：30~15：00  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎

### 7月

7/14/土~9/2/日

特別展「今だって氷河時代~埼玉からさぐる気候変動~」  
特別展開催期間中の毎週土曜日はワークショップを開催(当日参加OK・無料)

1/日

かわはくであそぼう・まなぼう 川の日記念「七夕かざりづくり」  
時間：①10：00~12：00 ②13：00~15：00  
費用：無料  
内容：川の日を記念して七夕かざりをつくり、荒川大模型173に飾ります

- 8/日** **秋期企画展関連イベント・田んぼの生き物観察**  
時間：10：00~12：00  
費用：100円(保険料)  
定員：20名(申込順) ☎  
内容：田んぼの周りを歩いて、生き物を観察します。
- 14/土** **かわはく体験教室・かわサタ自然教室「竹の水鉄砲づくり」**  
時間：13：30~15：30  
費用：200円(材料費)  
定員：25名(申込順) ☎  
内容：竹をつかった水鉄砲をつくり、的当てを楽しみます。
- 22/日** **かわはく体験教室・かわサタ自然教室「川のほりたんけん」**  
時間：10：00~15：30  
費用：2,000円(保険料・バス代)  
定員：20名(申込順) ☎  
内容：荒川の支流、風布川で川登りをします。(予備日7/28)
- 29/日** **かわはく夏まつり**  
時間：10：00~16：00
- 29/日** **特別展関連イベント・旧石器人の家づくりをしよう**  
時間：10：00~11：30  
費用：100円(保険料)  
定員：15名(申込順) ☎  
内容：みんなで協力して丸太と鹿の皮を使ったお家をつくります。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



彩の国さいたま

2012年3月27日発行

